

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム 郷会
淡路ふくろう 広報委員
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>

10月23日

第11回ふくろうふれあい祭り

「生きたい！
平和に自由に楽しく友と」



10体のかかし立つ

地域交流会・入居者とともに

9月9日(金) ふくろう

の郷に10体のかかしがお目見えしました。地域交流会の皆さまには骨組みまで作って頂き、入居者は古着を使った衣装づくり。個性豊かなかかしができ皆様をお迎えます。

今年、入居者・利用者の戦争体験の展示や語りも計画しています。悲惨な体験をしながらも平和を願い、一生懸命たくましく生き抜いてこられた方のお話をお聞きください。

そして、40キロのマグロの解体ショーを開催し、刺身を皆さまにふるまいます。その他例年同様、模擬店や舞台発表などたくさん催しもあります。秋の一日をお楽しみください。

このたび中川原連合町内会が、おたがいさま中川原やふれあい広場桜ヶ丘の運営の功績が認められ、社会貢献者表彰を受けることになりました。この表彰は、公益財団法人社会貢献財団が、人びとや社会のためにつくされた方を表彰し、日本財団賞を贈るものです。受賞おめでとうございます。

ごあいさつ

謹啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さてこのたび淡路ふくろうの郷施設長に就任することとなりました。分不相応の重責ではありますが、兵庫のたくさんの方の聴覚障害者、手話関係者、支援者が創りあげた大切なふくろうの郷の発展に全力を尽くし、皆様のご期待に添うよう努力いたす所存です。皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。まずは略儀ながら就任のご挨拶を申し上げます。

施設長 辻 愛子

理事会・評議員会報告

平成28年9月、第74回理 会と第48回評議員会、そのとして理事長選出のための第75回理事会を行ないました。

今回の議題の中心は、平成26年就任役員の任期満了に伴う新たな選任並びに淡路

新役員紹介

理事長・評議員

大矢 暹

理事・評議員

三根 一乘

小林 泉

本郷 善通

仲井 正

高田 裕

鳥越 月美

辻 愛子(新)

監事

松尾 俊朗

村井 義忠

評議員

嘉田 真典

齊藤 勇

朝倉 宏

湊 百江

平野 俊和

長塚 寿子

廣地 タマヘ

岩本 吉正

星 百合香

橋詰 恭子

山本 紋子

船越 健太

全聴福研
レポート報告

『施設を越えた他職種の支援により

入院・術前リハ・手術を乗り越えた柴木さん』

はじめに

今回、特別養護老人ホーム淡路ふくろうの郷に入居中の柴木義嗣さんに対して、多職種で連携し、協力病院の理解を得ながら支援を行った。

柴木さんについて

70歳、ろう者。字を書くことは好きだが、やりとりは困難である。書く内容は、知り合いの名前や住所、好きな食べ物の名前などが多い。自分なりの身振りも見られるが、何を伝えたいのか読み取れないことが多い。

入院のきっかけ

平成28年6月黄疸が出現し、膵臓がんの疑いで検査入院をした。検査の結果、腫瘍が見つかり手術を受けることになった。

術前

大きな手術を受けると、麻

酔や痛みの影響から呼吸が浅くなり、肺炎を起こすリスクがあるため術前に呼吸リハビリが必要となる。柴木さんも病院で呼吸リハビリの機械を用いて息を吸って保持する訓練を受けたが、指示が理解できず、繰り返し返すうちに訓練を嫌がるようになってしまった。



ストローで訓練をする柴木さん

手術

腫瘍の周辺を取り除く手術を受けた。手術は長時間に渡ったため、妹さん、看護師2名、生活援助員1名が交替しながら付き添った。執刀医も、信頼関係が築けている職員による支援が重要であるという考えであったため、手術室にも職員を入室させてくれた。術前は看護師、術後には生活支援員が通訳と不安の軽減のための支援を行った。

術後

無事手術は終わったが、予後不良と伝えられた。体調が落ち着いたのち、看取りケア目的で淡路ふくろうの郷への帰所することとなった。

現在

ほとんどの時間を居室のベッド上で過ごす生活となったが、自分の持ち物に囲まれゆったりと過ごされている。食欲不振の状態は続いているが、お寿司やアンパン、お菓子はよく食べられ、楽しむことがメインの食事となっている。妹さんもたびたび好きな食べ物を持参してくださっており、生活援助員も妹さんからの情報を元に、好きな食べ物を購入し提供している。

まとめ

入院・手術をきっかけに、家族と施設の職員、協力病院の職員が情報を共有して柴木さんを支援した。自分なりの方法で、自分の好きなことやしたいことを一生懸命伝えてくれる柴木さんなので、今後も

大好きなものを食べて、大好きで安心できる人や物の近くで、好きなことをして残りの人生を楽しんでもらえるよう支援していきたい。

(言語聴覚士 齊藤奈奈
看護主任・渋谷裕子)

その他、以下のレポートについても全聴福研にて報告する予定です。

- 『人生を語る・人生から学ぶ～ふくろうまなびあい文庫～』
ふくろうまなびあい文庫編集委員 橋詰恭子
- 『淡路ふくろうの郷の食事について』
管理栄養士 秦奈津子
- 『土居文子様の長寿祝いと自分史の取り組み～私は100歳です～』
生活支援員 山田繁和
- 『職員との信頼関係作り』
生活支援員 石黒裕規

学びあい文庫

土居文子自伝を読んで

■井口聡美様

土居文子さんの本を読んで、ショックを受けたことは、戦争中に空襲がひどくおびえながらも防空壕の中に隠れて過ごしていた時、3才の息子さんが熱を出して、薬もなく寝かせているだけで、ずっと高熱が続き、朝目を覚ますと息をしていなかったというとても悲しい出来事。

戦争は、あつてはならないと強く思いました。文子さんは、そんな大きな悲しみも乗り越え、ご主人とろうあのみんなの為、全国へと飛び回り、運動してこられました。若い人たちもそんな素晴らしい先輩がいる事を誇りに思い、感謝するべきだと思います。今、私達は日本という平和な国で、安心して暮らしていますが、世界に目を向けると戦争やテロでたくさんの方の命が奪われています。今、私達にでき



土居文子自伝

土居文子自伝
頒価 1000円
(税込)

ることは何か？1人1人がその事を考えるべきだと思います。文子さんがろうあのみんなの為に戦ってきたように、私達ができることを小さくても1つずつ積み重ねていく必要があると思います。

■三谷有美子様

パソコンや携帯・ファックスがない不便な時代に、若い女性がたくさん集まり、運動に繋がっていたこと、すごいと思いました。情報保障もあり、手話も広まっております、わからないことはネットで調べる、今は本当に恵まれてます。先輩方の活動のおかげで今があるのだと改めて痛感しました。昔の方は苦しかったからこそ、パワーを繋げ、聴覚障害者に対応のある施設を作るなど福祉の向上に活かしてきたのだと思います。私も微力ながら頑張っていきたいです。

法人減免について

- 8月から実施の介護保険制度の一部改正に伴い、入居者の中でも自己負担額が高額となるケースやそれに伴う社会福祉減免(法人負担)の実施で、現在の状況では年間180万円の法人負担増となります。
1. 現在、減免の対象となっている方 (確定した方) : 7名
 - ① 以前から対象の方 : 4名
 - ② 8月から対象となる方 : 2名
 - ③ 9月から対象となる方 : 1名
 2. 現在、ふくろうで手続き中の方 : 8名

洲本第一小学校との交流



練習した手話を披露してくれました



入居者と一緒にお菓子作り

(参考1)	
負担限度額認定証の段階の状況	
負担限度額認定証	人数
第1段階	2
第2段階	11
第3段階	34
第4段階	12
合計	59

(参考2)	
今年度、第3段階に変更になった方の状況	
第2段階→第3段階	人数
減免対象外	8名
減免対象	3名
手続き中	8名
家族へお知らせ	9名

	本来受領すべき利用者負担総額(全入居者)	軽減総額	10%相当額	全額公費分	控除額1%相当額	1/2公費分	助成額	助成請求額
介護施設サービス	59,369,040	3,034,800	5,936,904		593,690	1,220,555	1,220,555	1,220,555
人数		15名						



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

9月25日中川原ふれあいセンターにて第5回社会生活教室を開催し、兵庫県淡路県民局消費者生活センターの浜野淳子氏に「悪質業者に騙されるな」というテーマでお話しいただきました。

電気料金自由化による新たな詐欺事例も

今年4月から電力小売全面自由化の制度が始まり、新たな詐欺の手口も発生しています。「制度が始まったばかりなので分からないことも多く、契約の際に実際は必要のない新たな機器の購入を勧められたり、小売電気事業者の登録がない業者の訪問販売もあるようです。だまされたと分かっていても、誰にも相談せずに泣き寝入りし、消費者センターに連絡される方はごく一部です」と浜野氏は話します。

聞こえない事で

騙されないか不安

午後からは、参加者の皆さま



▲これまでの経験を話し合う参加者

んと経験談を話し合いました。

「インターホンが鳴ってもモニターを見て知らない人だと出ないようにしている」「台風の後に点検会社と名乗ってきた。名札がついていなかったのでお断りした」など聞こえないので、どこの誰なのか信用できず不安、突然の訪問も相手の言うことが分からず断るなど不安や必要な情報も聞けないでいる不便を抱えている方が多数おられました。

繰り返し学び、見極める力を身につけよう

また、「以前高額な布団を買わされそうになったことがあるよね」と参加者同士で経

験談を話していても本人はそれが詐欺とは思っていない方もおられます。「被害防止の話は何度も聞いているけれど、最近ではインターネットなど相手の顔が見えない詐欺も増えるなど、手口は次々と新しくなるので、繰り返し学び見極める力をつける必要がある。今日は勉強になった」と斉藤よし子さんは感想を述べられていました。

第1回淡路市手話施策推進協議会開催 副委員長に柏木智之氏

9月2日、4月からの手話言語条例施行に伴い、淡路市役所で第1回目の施策推進協議会が開催されました。

門市長より委員10名への委嘱状が交付され、委員長には淡路市社会福祉協議会常務理事の東根正二氏、副委員長には地元ろう者の柏木氏が選任され、議事に入りました。委員からは条例で謳われている学校での手話学習を実施しているか、地域での孤立を防ぐための災害の取り組みに合わせた手話の普及をどう実施していくのか、予算の執行状況はどうか、等の質問や現在の各部署での取り組み状況について意見が交わされました。来年度の事業や予算について話し合うべく、次回10月31日に2回目開催を決め、終了しました。

淡路市手話施策推進協議会委員名簿

(社福)淡路市社会福祉協議会常務理事	東根 正二
淡路聴覚障害者協会会計部長	柏木 智之
兵庫県立あわじ特別支援学校教諭	小林 知史
手話サークル津名会員	平松 弘子
淡路市民生委員児童委員連合会会長	桂 孝弘
淡路市身体障害者福祉厚生会会長	中川 勝太
(社福)ひょうご聴覚障害者福祉事業協会 理事長	大矢 暹
淡路市危機管理部部長	中川 富夫
淡路市教育部部長	那倉 康知
淡路市健康福祉部部長	長野 元昭

書いて伝えてみよう、 伝わる喜び

要約筆記奉仕員養成講座



今年度の要約筆記については予算の関係もあり淡路OHPの会と相談した結果、10日間の手書き講座を開催することとなり5名が学んでいます。講義・基礎的なノートテイクの技術を学び、講座は10回と短いですが、終了後はぜひサークル等に入会し、活動を通してさらに難聴者の方々への理解や技術を深めていただきたいと思います。

受講を終え、もっと学びたい意欲へと変化

手話奉仕員養成短期コース

養成講座短期コース(10日間)一宮・東浦会場とも終了しました。受講者の中にはもっと学びたいと長期コースに移られた方、手話サークルに加入された方もおられます。今後も学びを深められることを期待しています。

中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

デイサービスセンター 桜が丘

地域の一人暮らしの方7名、民生児童委員・協力委員8名、デイサービス利用者9名の計24名で第3回目の交流会を開催することができました。

午前は民生委員の島田様からのご挨拶に始まり、中川原駐在所の肥後さんが「地域の防犯について」お話し下さいました。「実は今朝も中川原で窃盗事件があった」と報告があり、皆さん驚きながら気を付けなければ!との思いで真剣に聞かれていました。

昼はふくろうの郷からの応援もあり調理員4名が力をあわせた松花堂弁当が振る舞われました。

午後からは軽体操をした後、チームに分かれ風船バレー、ボールを追い掛け椅子ごとにこけそうな勢いで白熱

9/6 独り暮らしの方とデイサービス桜が丘交流会開催



2016/09/06 13:00

した試合となりました。

最後に参加者から「有意義な日でありありがとうございました」「駐在所のお話にあつた詐欺には皆さんもくれぐれも気を付けましょう」「美味しい料理をいただきました」「久々にいろんな方に会えてよかったです」と感想をいただきました。

また来年も是非デイサービスセンター桜が丘にお越しください。お待ちしております。(竹内)

玉ねぎ栽培開始

玉ねぎ苗床の土壌改良をし種まき作業をしました

前回は40a分(収穫量17トン)の栽培でしたが今回は60a分(収穫量25トン)の苗作りを目指します。台風16号が接近し作業ができるか心配していましたが何とかできました。種まき機で種をまきもみから牛糞をまきシートでカバーする。利用者6人は種まき作業2回目であり慣れたものでした。地域の農家もあちこちでの作業が始まっています。(おのころの家 藤崎)



中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンターにて 開催

みんなきてね!!

～第11回 ふくろうふれあいまつり～

とき 2016年 10月23日(日)
11:00～15:00 ごろまで(小雨決行)

ところ 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

神戸ろうあハウスデイサービス須磨デイが、9月24日(土)兵庫県聴覚障害者文化祭に参加しました。文化祭の参加は須磨デイサービス立ち上げの翌年25年から今年で4回目です。須磨デイの利用者さん達は1年に1度文化祭に出店するために、ほぼ毎週、手作りの作業をされています。大方が元はろうあハウス兵庫デイに通われていた利用者さんで須磨デイの立ち上げと共に、須磨の方が近いとか通い易いという理由で移られた人達です。そんな皆さんは須磨デイに通いながらも、神戸ろうあハウスの老朽化を心配し、もし将来引越す時は少しでも協力できればとの思いからバザー出店を始めました。福祉バザーなのでそんな

第12回兵庫県聴覚障害者文化祭に参加して



手作り品を出店している様子

なに売り上げは期待できるものではありませんが、それでも皆さん「一日も早く移転を!」の思いで頑張っておられます。今年も1年間、作り溜めた作品を一つ一つ丁寧にセロファンに詰めました。そこには利用者さん達の一杯の思いも詰まっているのです。(眞木)



続々・地域を語る
中川原むかし話

かるた 口説き NO.27

北 岡 肇

ね ねずみは福の神

「大黒」さんのおつかい
あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。村の古老の夢物語りはここから始まります。ありもせんお話ですが「ネズミと大黒さん」の言い伝えを聞いたものです。

おじいさんは山へ薪伐にいきました。お昼になったので木の根っこに腰をおろし、おばあさんの作ってくれたおにぎりをたべました。

ところが、おにぎりがコロコロと転んでいきました。あっと思っておにぎりを追っかけたところ、おきな穴の中へコロコロと入っていきましました。するとネズミが出てきてしっぽにつかんで中へ消えて行きました。

そして次の日、おばあさんにおにぎり10個作ってもらい、ネズミの穴

へみんな転がしてやりました。

おなかいっぱいになった大黒さんとネズミさん、お礼返しにと「ぢいさんのおにぎりの風呂敷に大黒さんからももらった宝物一杯包んでおきました。

そんなこととは知らず風呂敷包みをもつて帰り「ばあさんや、今帰ったぞ・・・」と風呂敷包みを渡しました。あけてびっくり「ぢいさんや、宝物がいっぱい」あの穴の中にいた大黒さんが、そしてネズミさんが。ありがとう・ありがとう。大喜びだったということです。

(注)「地域のことをかるたで知りた」と当時の、洲本市中川原小学校の位高正直校長(107人)の依頼を受け中川原村史などを参考に文案をつくり、かるたの絵は、中川原公民館の東雅雄館長にA4版に書いてもらった。そして

平成4年12月10日

文部省特別活動の指定を受け学習の一部として、発表しました。児童によるかるた取りも披露された・・・。

行事・予定

- 10/23 (日) ふくろうの郷 10周年記念 第11回ふれ愛まつり
- 11/10 (木) 上半期監事監査。事務局会議
- 11/19 (土) 理事会・評議員会
- 11/26・27 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(京都)
- 11/28 (月) 社会貢献者表彰(東京帝国ホテル)



いつも
ご支援
ありがとうございます。
ごぞいます。

ふくろう募金が、1,087,159円となりました。前月より4,110円の増額です。

(10月1日現在)

ひとりひとりを大切に ともに生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では職員を募集しています

～あなたもともに働きませんか～

11月19日(土)採用試験を実施します。

・特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 (生活支援員・看護師・調理員)

(詳細はお問い合わせください。 TEL 0799-25-8550 (橋詰) まで)